中　間　報　告　書

令和８年８月３０日現在

1　事　業　名

遊びの中で防災スキルと非認知能力を身につける。親子防災リーダープロジェクト

2　実施期間

令和８年４月１日～令和９年２月２８日（補助金交付申請書に記載の日付）

3　事業内容

①　事業の目的・概要

防災専門家による講座と段階的な体験型ワークショップを通じて、家庭の備えを具体的に実行できるとともに、災害時の基礎スキル（避難行動、火・水の扱い方、衛生管理等）を持ち、共助や学びの共有ができる「親子防災リーダー」を育成し、地域の災害対応力を高めることを目的とする。竹林のスコレー（倉敷市玉島）を主会場に、川・竹・土・火・水といった自然の中での本物の体験を通じて、子どもたちの非認知能力と防災スキルを段階的に育む全６回の年間プログラムを実施している。

②　事業の流れ・進捗状況等

＜実施したこと＞

第１回（7 月 24 日）「ラフティングの達人と学ぶ川の安全」をそうじゃ水辺の楽校で開催した。ラフティング世界選手権メダリストの平田章祥氏を講師に迎え、サップでの川の移動体験や急流に流される体験を通じて、座学ではなく体感として川の危険性を学ぶ内容とした。大人 10 名、子ども 21 名の計 31 名が参加した。

第２回（7 月 30 日）「お手製食器と流しそうめん台づくり」を竹林のスコレーで開催した。竹を使った箸・食器づくりや、専用の道具を使った竹の半割り作業を通じて、「あるものを工夫して使う力」を体験的に学ぶ内容とした。大人 13 名、子ども 19 名の計 32 名が参加した。

第３回（8 月 20 日）「防災のプロと学ぶ！防災リュックの中身と『119』」を竹林のスコレーで開催した。元消防士で総合防災コンサルタントの堀脇泰治氏を講師に迎え、各家庭の防災リュックの実物点検と 119 番通報の実践練習を実施した。大人４名、子ども５名の計９名が参加した。

どの回も、座学ではなく実際に手や体を動かす体験を通じて、「あるもので工夫する力」「仲間と協力する力」「困難な状況でも自分で考えて行動する力」といった非認知能力の育成を意識した内容とし、体験の前後に配布資料やアンケートを組み合わせることで学びの定着を図っている。

＜今後、実施すること＞

9 月 23 日（水・祝）に「風・土・水の流れを学ぶ！土砂崩れを防ぐ大地の再生 WS と池の水抜いて生物調査」、10 月 24 日（土）に特別回として「断水に備える！みんなでチャレンジ井戸づくり」（講師：鈴木昭彦氏の協力を得て実施）、12 月 19 日（土）に「野外調理＆消火器の使い方」を、いずれも竹林のスコレーを主会場に実施する予定である。あわせて、1 年間の講座内容をまとめたガイドブック（B5・8 頁）を制作し、令和 9 年 1 月頃の配布・共有を予定している。

③　これまでの成果・効果、今年度事業終了後の成果・効果の見込み

事業参加者にとっては、3 回の講座を通じて延べ 72 名（大人 27 名・子ども 45 名）が参加し、アンケート結果からも防災意識・非認知能力の両面で高い手応えが確認できている。回答者の 87％が「今日の内容は分かりやすかった」のうち「とても」を選択し、97％が「防災への関心が高まった」（「とても」「少し」の合計）と回答、子どもの満足度についても 100％が「楽しんでいた」（「とても」「楽しんでいた」の合計）と回答している。

事業実施団体（当法人）にとっては、講座の運営を重ねる中で、講師との連携体制や当日運営のノウハウが着実に蓄積されている。利用者数は 23 名（目標比 66％）、Instagram フォロワー数は 2,049 名（目標比 82％）まで伸びており、各回の開催報告をブログ・SNS で発信することで、地域内外への認知向上にもつながっている。

備中地域にとっては、参加者の口コミや紹介による新規参加者の広がりが見られ、今後のガイドブック配布や事業展開を通じて、地域全体の防災意識の底上げにつながることが期待される。

対象	評価指標	評価方法	目標	実績
事業参加者	アンケート回答件数	アンケート実施	100 件	30 件（進行中）
事業実施団体	利用者数	利用者人数	35 名	23 名（66%）
事業実施団体	Instagram フォロワー数	フォロワー人数	2,500 名	2,049 名（82%）
備中地域	ガイドブックの配布	共有団体数	10 団体	共有団体候補をリストアップ（23 団体、別紙）

＜アンケートの参加者感想＞

第 1 回「川の安全」

・SAP を体験でき、「1 人で SAP に乗れた」と自信も持てたようだった。急な速い流れも体験し、川の危険についてしっかり知ることができた。

・普段なかなかできない体験をさせてもらえた。SAP は自身も気になっていたので、子どもと一緒に体験でき嬉しかった。

・川はすごく危ない場所だと知った。とても貴重な体験ができた。また参加したい。

・川遊びはほぼ初めてだった。急に深くなったり流れが速くなったりする川の危険を子どもも感じたと思う。親のライフジャケットも購入し、安全に川遊びを楽しみたい。

・川の流れが急になる場所（エディ）の危険を、実際に流れて体験することでその力を感じることができた。ライフジャケットの大切さがよく分かった。（4 回目の参加）

・（要望）避難食の作り方や、地震・断水時の対処法を知りたい。

第 2 回「お手製食器と流しそうめん台づくり」

・竹の加工に子ども一人ひとりが意欲的に取り組み、大人も子どもも大盛り上がりだった。工程の説明が丁寧で、スタッフのサポートもありがたかった。

・自分たちで作った食器で流しそうめんを食べられたのが、とても楽しい経験になった。「あるものを工夫して使う」気持ちが、いざという時につながるきっかけになればと思う。

・小刀やノコギリを使うものづくりは幼稚園・小学校の低学年ではなかなか経験できず、貴重な体験となり、子どもの自己効力感も高まったと感じる。

・知らない親子との交流もでき、助け合いや声をかけ合うことも防災の大事な学びだと感じた。

・（要望）簡易トイレづくりや断水・停電時の調理、救助信号の送り方についても知りたい。

第 3 回「防災リュックの中身と 119」

・情報過多の中でどう行動に落とし込めばいいか不安しかなかったが、今回のプロジェクトでやるべきことが明確になり、備えに自信が持てそうになった。帰ったら早速パッキングや不足分を補いたい。

・実際に防災リュックの中身を見たことがなかったので、必要なものが入っておらず、不必要なものがたくさん入っていることに気づいた。家に帰ってすぐ詰めなおしたい。

・行政や企業などの都合が入っていない、現場の意見が反映された現実的な講座だった。消火器訓練も子どもに体験させてみたい。

・（要望）避難場所に実際に行ってみるという回があってもいいかもと思った。

＜前年度との比較＞

来年度以降の自主事業としての開催を視野に入れ、持続可能な形での運営体制を検証するため、今年度は開催曜日を前年度の土日中心から、夏休み期間中の平日中心へと変更した。この変更を踏まえ、前年度の中間報告時点（3 回終了時点）との比較は以下のとおりである。

項目	令和 7 年度（前年度）	令和 8 年度（今年度）
実施内容	6/14 防災士ワークショップ／8/5 流しそうめん台づくり／8/6 塩づくり	7/24 川の安全／7/30 食器・そうめん台づくり／8/20 防災リュックと 119
開催曜日	土・日中心	夏休み期間中の平日中心
参加者数	大人 35 名・子ども 52 名　計 87 名	大人 27 名・子ども 45 名　計 72 名
アンケート回答数	15 件	30 件
「分かりやすかった」（とても）	86.7%	87%
「防災への関心が高まった」	93.3%（とても＋少し）	97%（とても＋少し）
子どもの満足度	100%	100%

参加者数は前年度 87 名から今年度 72 名へと減少したが、これは主に開催曜日を平日に変更したことによる影響と考えられる。一方で、アンケート回答数は 15 件から 30 件へと倍増し、「防災への関心が高まった」の回答率も 93.3%から 97%へと向上するなど、参加者一人ひとりの満足度・関心度を示す指標はいずれも前年度と同水準かそれ以上を維持している。平日開催でも一定の参加・満足度水準を確保できることが確認できたのは、次年度以降の自主事業化に向けた運営形態を検討するうえで重要な材料となる。

④　課題等

アンケート回答件数は、年間目標 100 件に対し現時点で 30 件（30%）にとどまっており、残り 3 回の講座でどのように回収率を高めるかが課題である。利用者数（66%）・Instagram フォロワー数（82%）は目標に向けて着実に伸びているものの、目標達成にはまだ距離があり、引き続き認知拡大の取り組みが必要である。加えて、参加者アンケートの自由記述からは、簡易トイレづくりや

断水・停電時の生活術、避難場所の実地確認など、より実践的な内容への要望も寄せられており、次年度以降のプログラム内容の検討材料としたい。

4　参考事項・資料

・収支精算書見込又は収支（変更）予算書

・写真（各回の開催報告書に添付、データ提出可）

・当日資料（第 1 回：川の安全ガイド資料　等）

・アンケート結果（第 1 回～第 3 回、開催報告書に添付）

・ガイドブック共有先候補リスト（子育て支援団体・大学・フリースクール・放課後等デイサービス、23 団体・別紙）

5　次年度以後の事業展開

次年度の事業展開	**事業展開の方向性（チェック欄に「✓」）** ☑　提案団体の自主事業として収益を得て継続・拡大していくことを目指す。 ☐　備中地域みらいづくり支援事業として事業を継続しつつ、次々年度の自主事業化へ備える。 ☐　その他（　　）
	中期的な目標を実現させるための具体的な事業の内容 地元企業への協賛依頼を拡大するとともに、マンスリーサポーター等の個人寄付者を増やし、財源の多角化を図る。あわせて、流しそうめん台や竹の遊具といった制作物の活用・収益化を検討するほか、本事業で確立したワークショップ・講座のノウハウを活かし、助成期間終了後は有料プログラムとしての継続開催を目指す。講座内容をまとめたガイドブックは、地域の学校・子育て支援施設等へ配布し、ノウハウの横展開を図る。

参考：ガイドブック共有先候補（子育て支援団体・大学・フリースクール等）

令和 9 年 1 月に発行予定のガイドブックについて、共有先の候補となる子育て支援団体・大学を以下のとおりリストアップした。目標 10 団体に対し、23 団体を候補として挙げている。竹林のスコレーに近い倉敷市玉島地区を最優先とし、そうじゃ水辺の楽校とのご縁がある総社市の団体、子ども関連学部を持つ大学・防災活動の実績がある大学、さらに竹林のスコレーと同じ立場のフリースクールや、玉島地区の放課後等デイサービスも候補に含めている。

区分	団体名	所在地
A	地域子育て支援センターよしうら	倉敷市玉島 1898-1（よしうら認定こども園内）
A	ひろば・わたぼうし	倉敷市玉島乙島 1105-13
A	玉島児童館つどいの広場	倉敷市玉島中央町 3-9-12（玉島児童館内）
A	さくよう森の広場「どんぐりっこ」	倉敷市玉島長尾 3524-5（くらしき作陽大学附属認定こども園内）
B	小ざくら地域子育て支援センター	倉敷市水島北幸町 2-5（ひろばにじいろ内）
B	地域子育て支援センター三宝すくすくらんど	倉敷市児島味野城 2-1-5（三宝認定こども園内）
B	倉敷市子育て支援センター	倉敷市笹沖 180（くらしき健康福祉プラザ内）
C	総社市地域子育て支援センター（代表窓口）	総社市こども夢づくり課　管轄 5 保育所
C	西部親子ふれあいプラザ	総社市（出張支援センター「ゆめいろたまてばこ」実施）
D	子育てひろば「ほっとハウス」	倉敷市上富井 628-12
D	遍照地域子育て支援センター	倉敷市西阿知町 465-1（遍照こども園内）
E	くらしき作陽大学（子ども教育学部）	倉敷市玉島
E	倉敷市立短期大学（保育学科）	倉敷市児島稗田町 160
E	川崎医療福祉大学（医療保育学科）	倉敷市松島
E	吉備国際大学（防災教育の実績あり）	高梁市

F	倉敷市立適応指導教室「倉敷ふれあい教室」	倉敷市内 3 拠点（倉敷・水島・児島）
F	さかのうえのフリースクール	倉敷市下津井
F	明光フリースクール倉敷校	倉敷市昭和 2-4-15　クラデン 1F
F	NPO 法人セルフィッシュ	倉敷市・浅口市（2 教室）
G	玉島児童発達支援センター	倉敷市玉島八島 1436-1
G	きらり玉島	倉敷市玉島乙島 5796-53
G	児童発達支援・放課後等デイサービス　つぼみケア	倉敷市玉島乙島（富田ケアセンター）
G	児童総合支援センターあんだんて	倉敷市

※すでに関係のある団体から順次アポイントを取り、本事業の趣旨に賛同いただける施設や団体からの希望・要望も確認しながら、令和 9 年 1 月の発行に合わせて共有を進める予定。

写真（各回）

第 1 回　ラフティングの達人と学ぶ川の安全（7 月 24 日）



参加親子・スタッフ全員での集合写真



講師から当日の流れや川の地図について説明を受ける参加者



MEGA サップに乗り込み、橋の下をくぐって移動する様子



川に飛び込み、笑顔で楽しむ子どもの様子

第２回　お手製食器と流しそうめん台づくり（7 月 30 日）



ノコギリで竹を輪切りにし、自分だけの器を作る子ども



ナタを使い、好みの太さに竹を割って箸を作る子どもたち



木づちで割り刃を打ち込み、竹を半分に割る子ども



自分で作った箸と器で、流しそうめんを楽しむ子どもたち



協賛企業さまの横断幕の前での集合写真

第３回　防災のプロと学ぶ！防災リュックの中身と「119」（8 月 20 日）



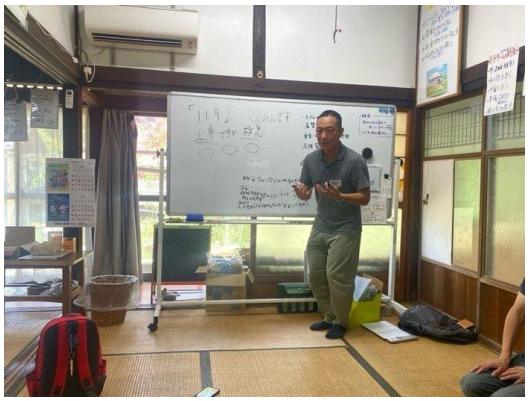
当日のスケジュールを確認しながら講座がスタート



堀脇さんが、防災リュックの中身を一つひとつ並べて解説



自宅から持参した防災リュックを開き、中身を一緒に確認



ホワイトボードを使い、119 番通報のポイントを説明する堀脇さん



協賛企業さまの横断幕の前での集合写真